

2 学習プログラムをつくる

キャリア教育は、関連する様々な取組みが各学校の教育課程に適切に位置付けられ、計画性と系統性を持って展開されてこそ、そのねらいが実現されます。

現在、計画(Plan)を実行(Do)し、評価(Check)して改善(Action)に結び付ける、いわゆるPDCAサイクルに沿って、学校運営、教育活動が行われています。

キャリア教育についてもこのPDCAサイクルに沿って実施することが大切です。全体計画等を作成・実施し、実施内容等を評価して、評価を改善に結びつけ、次の計画に反映させることを通して、年度ごとに見直しを行うことが必要です。(※7)

資料

※7 P. 44~49

No.7 学習プログラムのマネジメントサイクル例

(P. 44, 45 : 庄原市立西城小学校)

(P. 46, 47 : 竹原市立竹原中学校)

(P. 48, 49 : 西条農業高等学校)

ポイント

キャリア教育の実践がその教育的目標を達成し、より効果的な活動の実践に発展していくために、PDCAのマネジメント・サイクルに沿って展開

(1) 計画 (Plan)

キャリア教育を進めるには、児童生徒の発達段階や発達課題を踏まえるとともに、学校の教育計画の全体を見通す中で、キャリア教育の全体計画やそれを具体化した各教科等の指導計画を作成する必要があります。

その際、各発達段階における発達課題の達成との関連から、各時期に身に付けることが求められる能力・態度の到達目標を具体的に設定するとともに、個々の活動がどのような能力・態度の形成を図ろうとするものかなどについて、できるだけ明確にしておくことが大切です。

キャリア教育を進めるに当たっては、地域の特徴を踏まえるとともに、生徒や学校、地域の実態等に応じ、それぞれの学校にふさわしい特色ある教育課程を編成していくことが大切です。

ポイント

- ① 児童生徒の実態の把握と（キャリア教育で）身に付けさせたい能力等の明確化
- ② 到達目標の明確化
- ③ 学校におけるキャリア教育の取組みの状況の明確化
- ④ キャリア教育の視点に立った目指す児童生徒像の明確化
- ⑤ 到達目標を達成するためのキャリア教育全体計画等の作成

1 児童生徒の実態の把握と（キャリア教育で）身に付けさせたい能力等の明確化 ■

留意点

- (1) 児童生徒の発達段階に応じた「キャリア教育の学習プログラムの枠組み」に示された4領域の能力について理解します。(※8)

資料

※8 P. 50

No.8 キャリア教育の学習プログラムの枠組み例

- (2) 児童生徒の実態や児童生徒を取り巻く状況について、キャリア教育の視点からアンケート等を用いて調査し、的確に把握します。(※9)

次のデータ等を参考にすることが大切です。

- ・ 基礎学力の定着状況についての調査
- ・ 体験的な学習活動等における児童生徒の感想文
- ・ 「夢のスケッチブック」 等

資料

※9 P. 51～58 No.9 児童生徒対象アンケート例
(P. 51～53 : 大竹市地域)
(P. 54 : 竹原市立竹原小学校)
(P. 55～57 : 竹原市立竹原中学校)
(P. 58 : 竹原高等学校)

- (3) 「児童生徒の実態」を踏まえ、各校におけるキャリア教育を通じて身に付けさせたい能力等を明確にします。
- (4) 地域で連携してキャリア教育に取り組む場合は、各校種から、児童生徒の実態把握の結果等を持ち寄り、それぞれの地域において、キャリア教育を通して身に付けさせたい能力等を明確にします。

2 到達目標の明確化

留意点

- (1) どのように児童生徒が変容したかを検証できるような到達目標を設定します。
- (2) 到達目標の達成状況を評価するために、観点別の評価規準及び評価基準を設定します。

3 学校におけるキャリア教育の取組みの状況の明確化

留意点

各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間において、これまでどのようにキャリア教育に取り組んできたのかを把握します。

4 キャリア教育の視点に立った目指す児童生徒像の明確化

留意点

- (1) 「1 児童生徒の実態の把握と（キャリア教育で）身に付けさせたい能力等の明確化」(P.13)「2 到達目標の明確化」「3 学校におけるキャリア教育の取組みの状況の明確化」(P.14)に基づいて、目指す児童生徒像を明確にします。(※10)

(例) 「将来の夢や目標の実現に向けて行動する児童生徒」
「我が町を誇りに思い、愛し、貢献する児童生徒」 等

資料

※10 P. 59, 60 No.10 キャリア教育研究概要
(P. 59 : 東広島市地域)
(P. 60 : 庄原市西城地域)

- (2) 児童生徒の実態及び各学校におけるこれまでのキャリア教育の取組みの状況の把握を基に、児童生徒の発達段階に応じた各地域版の「キャリア教育の学習プログラムの枠組み」を作成します。(※11)

資料

※11 P. 61, 62
No.11 キャリア教育の学習プログラムの枠組み例
(P. 61 : 大竹市地域)
(P. 62 : 福山市新市地域)

5 目標を達成するためのキャリア教育全体計画等の作成

留意点

- (1) 学校経営計画にキャリア教育の推進を位置付けます。
(2) 「キャリア教育全体計画」を作成します。(※12)

資料

※12 P. 63~68 No.12 キャリア教育全体計画例
(P. 63 : 福山市立常金丸小学校)
(P. 64 : 福山市立戸手小学校)
(P. 65 : 庄原市立美古登小学校)
(P. 66 : 大竹市立小方中学校)
(P. 67 : 西条農業高等学校)
(P. 68 : 戸手高等学校)

- (3) 各学年における「各教科等を関連付けたキャリア教育学習計画（題材系統図）」を作成します。(※13)

資料  ※13 P. 69～71 No.13 キャリア教育題材系統図例
(東広島市板城小学校)

- (4) 各教科等の「年間指導計画」を作成します。(※14)

資料  ※14 P. 72～77
No.14 年間指導計画を加えた題材系統図例
(P. 72～74 : 東広島市立向陽中学校)
(P. 75～77 : 庄原市立西城中学校)

中学校・高等学校においては、各種計画を作成する際、進路指導の6つの活動の関係を明確にする必要があります。

◎ 進路指導の6つの活動

【参照：文部省「中学校・高等学校進路指導の手引き－進路指導主事編」(昭和52年)】

- ① 個人資料に基づいて生徒理解を深める活動と生徒に正しい自己理解を得させる活動（自己情報の理解）
- ② 進路に関する情報を得させる活動（自己以外の情報理解）
- ③ 啓発的な経験を得させる活動（啓発的経験）
- ④ 進路に関する相談の機会を得る活動（進路相談）
- ⑤ 就職や進学に関する指導・援助の活動（就職や進学への指導援助）
- ⑥ 卒業生の追指導に関する活動（追指導）

- (5) 各教科等の単元計画、学習指導案及び教材を作成します。

- ① 「年間指導計画」に基づいた、単元計画を作成します。(※15)

資料  ※15 P. 78～101 No.15 単元計画・学習指導案例
(P. 78 : 大竹市立玖波小学校)
(P. 81 : 東広島市立御菌宇小学校)
(P. 84 : 庄原市立西城小学校)
(P. 87 : 大竹市立小方中学校)
(P. 90 : 竹原市立竹原中学校)
(P. 93 : 福山市立新市中央中学校)
(P. 96 : 西条農業高等学校)
(P. 99 : 西城紫水高等学校)

- ② 単元計画に基づいた「学習指導案及び教材」を作成します。(※16)

資料

※16 P. 78～101 No.15 単元計画・学習指導案例
(P. 79, 80 : 大竹市立玖波小学校)
(P. 82, 83 : 東広島市立御藺宇小学校)
(P. 85, 86 : 庄原市立西城小学校)
(P. 88, 89 : 大竹市立小方中学校)
(P. 91, 92 : 竹原市立竹原中学校)
(P. 94, 95 : 福山市立新市中央中学校)
(P. 97, 98 : 西条農業高等学校)
(P. 100, 101 : 西城紫水高等学校)
P. 102～115 No.16 教材例
(P. 102～105 : 大竹市立大竹小学校)
(P. 106 : 竹原市立竹原中学校)
(P. 107～111 : 大竹市立玖波中学校)
(P. 112, 113 : 西条農業高等学校)
(P. 114, 115 : 西城紫水高等学校)

事前に次の内容について検討することが大切です。

その際、大学教授や指導主事等を交えた研究協議会を開催することが有効です。

【検討内容】

- ・ 教科・科目・単元のねらい及びキャリア教育に関連したねらい（身に付けさせたい資質や能力）の設定について
- ・ 児童生徒がこれまで身に付けている資質や能力，関心・意欲などの状況把握及び分析について
- ・ 指導内容，指導方法（授業における工夫・改善点）について
- ・ キャリア教育の目標の達成状況を評価するための観点や評価規準及び評価基準の作成について
- ・ キャリア教育の目標の達成状況を評価する方法について
- ・ 検証指標の設定について
- ・ 教材等（ワークシート，記録簿，自己評価票等）について
- ・ 他の教科・科目等との関連について
- ・ 事前・事後の学習との系統性について 等

(2) 実施 (D o)

日頃の教科指導において、子どもたちが学んだ知識を実感を伴って理解できるようにすることをはじめ、学ぶことの意義を身をもって体得したり、社会生活や将来の職業生活における必要性や有用性等を認識したりすることが必要です。

また、日頃の教科の学習が、子どもたち一人一人の生き方や将来の進路と深く結びついていることを一人一人の教員が改めて深く認識するとともに、教科における指導とキャリア教育との関連を常に意識し、子どもたちのキャリア発達を支援するという視点に立った指導の工夫・改善を図るため、学校全体で取り組むことが大切です。

さらに、職場体験やインターンシップなどの体験的な活動を一過性の行事に終わらせるのではなく、その後の子どもの生活や意識の変容に十分つなげるため、指導する側が明確な目標のもとに、期間・内容等を定め、受入事業所等との共通理解を図ることが重要です。

また、事前指導において子どもたちに体験活動の意義をしっかりと理解させるとともに、職業調べやインタビューと組み合わせたり、事後にまとめの話し合いや討論会、発表会等を計画したりするなど、周到な計画と準備のもとに実施することが大切です。

キャリア発達を促す要素の一つとして、日頃から、年齢や価値観が異なるなどの「多様で幅広い他者」と積極的にかかわりを持つことが重要です。

このことを踏まえ、地域社会や企業等のボランティア活動やサークル活動、職場体験、インターンシップ、地域の催しなどを通して、子どもたちが日頃から、多くの人々と幅広い人間関係を持つことができるよう、学校、家庭、地域が一体となって様々な場や機会を積極的に設けていくことが大切です。

ポイント

各教科等指導計画に沿った活動の実施

手順及び留意点

1 各教科等の指導計画に沿った活動の実施

留意点

計画した内容を踏まえて授業を実施します。

授業を改善するために、次のような研究授業を実施することが有効です。

- ・ 大学教授及び指導主事等を交えた研究授業
- ・ 異校種の教員の参加による研究授業

事後の検討会を開催し、授業実施前に行った研究協議会で検討した内容について検証することが大切です。

(3) 評価 (Check)

評価に当たっては、「終了時の評価」として行う目標の達成状況の評価だけでなく、「実践過程での評価」として、前もって計画した活動が効果を上げつつあるかどうか、予測しなかった問題や課題が起きていないかを確認し、必要な場合には計画を修正することなども大切です。

また、児童生徒の変化に視点を当てた場合、定量的評価だけではなく、担当教員が児童生徒の行動を観察したり、取り組んでいる時の児童生徒自身の感想などの資料による定性的な評価も大切です。

このようなことから、児童生徒が取り組んだ課題や、進路指導などで行った検査や調査、学業成績など、児童生徒に関する全資料を一括したポートフォリオが、キャリア教育を通しての児童生徒の変化や教員の取組みの評価にも極めて有効な情報として活用できます。

ポイント

- ① 指導計画に示した目標の達成状況の評価
- ② 取組みによる成果と課題を検証

手順及び留意点

1 指導計画に示した目標の達成状況の評価

留意点

- (1) 計画段階で作成した評価の観点・規準（基準）により、何がどの程度達成されたかという具体的評価を行います。

次に例示する基本的な観点で評価することが大切です。

【基本的な評価の観点（例）】

- ① 目標の設定について
 - ・ 目標の設定は具体的であったか、また、妥当であったか
 - ・ 目標設定過程への各教員の参加度、理解度はどうか 等
- ② 実践中の評価について
 - ・ 児童生徒は積極的に取り組んでいるか、理解はどうか、予測した取組みをしているか
 - ・ 期待した変化や効果の兆しはあるか
 - ・ 教員が適切な指導を行っているか
 - ・ 児童生徒の感想はどうか 等
- ③ 評価の方法について
 - ・ 評価のための計画は適切に立てられていたか
 - ・ 評価方法やそのための資料は前もって用意されていたか、評価方法は妥当であったか 等
- ④ 「児童生徒の変容」の評価
 - ・ プログラム実施中の児童生徒の態度の変化
 - ・ プログラムの目標の達成状況（実施過程中、及び終了時） 等
- ⑤ 評価を受けての改善について
 - ・ 今までの評価を教員、保護者等で客観的に見直し、共通理解されているか
 - ・ 評価を次の改善策として適切に生かしているか 等

(2) 保護者アンケート等による外部評価を行います。

2 成果と課題の検証

留意点

成果と課題の検証はできるだけ詳細に行います。（改善の視点を明確にする。）

(4) 改善 (Action)

評価を受けての改善について、評価結果を教員、保護者等で客観的に見直し、共通理解を図ることが大切です。

そして、評価結果を基に適切に次の改善策として生かし、次年度の学習プログラム（学習プログラムの枠組み、キャリア教育全体計画等）を修正する必要があります。

ポイント

- ① 成果と課題を検証し、次年度の改善計画を立案
- ② 次年度の諸計画を修正

手順及び留意点

1 成果と課題の検証から改善計画の立案へ

留意点

- (1) 成果と課題の検証に基づいて、指導計画の内容の見直しを行い改善計画を作成します。
- (2) 近隣の学校間（小・中・高）で、合同の授業研究会、研修会を開催し、学習プログラム（学習指導案や教材等）を修正します。

2 次年度の諸計画の修正

留意点

各地域版の児童生徒の発達段階に応じた「キャリア教育の学習プログラムの枠組み」、 「キャリア教育全体計画」を修正します。